

綾瀬川ってどんな川？

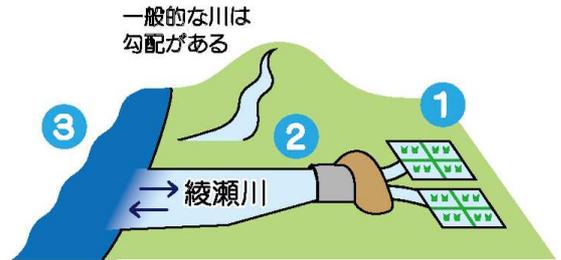
綾瀬川ってどんな川？

綾瀬川の特徴

綾瀬川は、

- 1 始まりが田んぼからの落ち水のため流量が少ない
- 2 勾配が緩やかなため水が入れ替わりにくい
- 3 海の満ち潮の時に川の水が逆流する

という特徴があります。このため、汚れた水が停滞しやすく、水質が悪化しやすい川です。



田畑が多い地域

綾瀬川の起点



水源は田んぼから流れる水

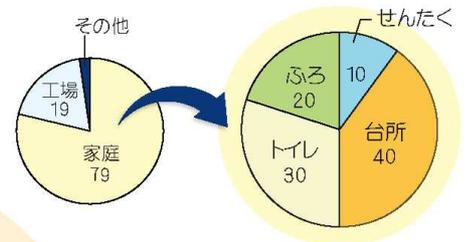
流域面積

178km²

川の長さ

47.6km

綾瀬川に流れこむ汚れの原因は、およそ8割が生活排水、およそ2割が工場からの排水です。



田んぼの景観が残る上流域



芭蕉が訪れた草加宿付近



綾瀬川の終点



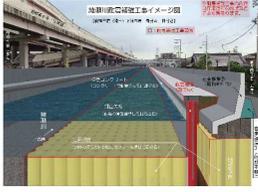
綾瀬川の変遷

時代の経過とともに、綾瀬川の様子も移り変わっています。

年代	綾瀬川周辺のできごと	綾瀬川の様子・とりくみ
江戸 初〜中期	流路が曲がりくねっており洪水が多発 松尾芭蕉が草加宿に立ち寄る	●伊奈備前守忠次・忠治による整備 備前堤築堤により元荒川から分離され、下流側の洪水被害が軽減した。流域に灌漑用水が整備され、新田が開発された。区内においては、寛永八年（1629年）の工事で、内匠橋から伊藤谷村（現在の綾瀬）まで直線水路が開削された。
大正 時代	舟の発着場（河岸）が設けられ舟運が発達	●河岸の賑わい 周辺には商店が多くできて地域が賑わった。 大正5（1925年）発動機船（綾瀬丸）登場。
昭和 初期	大降雨や台風により水害被害が続く	●河川改修工事 荒川放水路の建設に合わせて古綾瀬川に沿って開削され、中川放水路に合流した。 中・上流部の河川改修工事も完成し、直線的な河道となった。
昭和 30年代	道路が発達し、舟運が衰退 高速道路の発達 高度経済成長長期	●治水工事 高潮対策事業により堤防のかさ上げを実施した。 水害対策として、放水路の整備を行った。
昭和 40年代	地盤沈下・水質悪化	●自治体による水質浄化の取組み 足立区が主導し、流域自治体と共に綾瀬川浄化対策協議会を設立し、対策を検討した。 （平成29年に役目を終えて閉会）
昭和 51年		●河道の形が決定 内匠橋・谷古宇橋間の改修と綾瀬川排水機場の設置工事が実施され、ほぼ現在の流路となる。
昭和 61年		●綾瀬川河川懇談会 設立 流域の市町村の住民、都県、国で水質浄化などの対策を検討した。
平成 6〜22年	綾瀬川が15年連続で水質ワースト1に	●綾瀬川清流ルネッサンス21・ルネッサンスII 流域の市町村の住民、都県、国が一体となって水質浄化・水辺環境の整備に取り組んだ。 主な取組み…みんなで水質調査、水環境モニター、グリーン大作戦等
平成 19年	綾瀬川の水質が環境基準値（5mg/l）を達成	
平成 23年	東日本大震災	●耐震工事 地震に強い川を目指し、元々の護岸の補強と地盤改良を行っている。（令和3年完成予定）
令和 元年	耐震基準の見直し	●親しみの持てるrivers 綾瀬川と毛長川に桜の名所をつくる試みや水辺に親しめる空間の整備を進めている。



六町駅付近の整備イメージ
（中川・綾瀬川圏域河川整備計画、東京都）



綾瀬川耐震補強工事イメージ図



グリーン大作戦の様子（平成22年）



綾瀬川堤防かさ上げ工事（昭和40年代）



伊奈忠次像（水戸市道明橋）